



3. “ハイパーローカル”という挑戦を掲げる GUNMAいせさき大会。その先に、中川大会 会長はどんな未来を描いていますか？

中川大会会長 “ハイパーローカル”という言葉は、実は私が掲げたというよりは、自然発生的にメンバーの中から出てきた言葉です。私としてもすごくしっくりきた言葉で、キャッチーな表現でもあるので使わせていただいています。やはり第1回大会から全国をほぼ一巡して2周目に入る節目の大会と考えると、今後この全国大会というコンベンションは、ブロック大会然り、必然的にキャピタルではない土地での開催が多くなってきます。そうしたときに人口が少ないからとか、マンパワーが足りないからという理由で、後ろ向きのマインドになるのは避けたいと思います。今、進行中であるGUNMAいせさき大会は、地元愛とYEGメンバーとしての矜持とユーモアを含めた個性、それらを掛け合わせればどんな形であれできないことはない、と実感しています。今後、このコンベンションを担う地域の方々や、手を挙げるチャンスがある人たちには、ぜひ前向きに向き合ってもらいたいと思いますし、すごく大きなチャンスでもあります。つないでくれた人々への感謝ももちろんあります。規模はずっと右肩上がりでも拡大し、10,000人規模のコンベンションへと成長してきた中、時代の変化により環境の厳しさはありますが、そこに立ち向かうマインドを持って全国大会に臨んでもらえるようなムーブメント、機運の醸成を図れるGUNMAいせさき大会にしていきたいと思っています。会場も収容人数はかなり少ない。けれども、いろんな工夫をして参加者の皆さんに快適な時間を提供し、参加して良かったという気持ちを持っていただければ、それが“ハイパーローカル”。中心都市でなくても情報都市、この消滅可能性自治体というような話が出る地域であっても、工夫と努力と愛情を持って臨めば成果を上げられるということを体現して、皆さんにお示ししたいと思います。

4. 全国から群馬に集う仲間へ、 小野会長・中川大会会長として 一番伝えたい“メッセージ”は何ですか？

小野会長 この国は世界最古の王朝で、初代神武天皇が即位して以来、2025年で2685年目です。“世界最古の王朝”ということが、間違いなくこの国の長所だと思うんです。バトンが途切れることなく手渡されていくということ。それは1人では成し得ない本質論です。私は、そこにYEGも然りですが、この国の本質が集約されていると念うのです。

日本は100年続く企業が世界の総数の50%を超える。200年続く企業も70%を超える。逆に10年存続率は6.3%しかない。全体の1割にも満たないのです。経営者も役人も政治家も、地域や企業が「明日無くなってもいい」なんていう人はおそらくいません。1年後も、できれば3年後も、お客さんに喜んでいただき、そのご縁をつないで、従業員のサラリーを増やし、経営の範囲を広げながら継続していければ、経営者として倅せだと念います。地域でいうと自分の故郷、大きくいえば国の、豊かな暮らしや社会が継続して欲しい。倅せの価値観というものは時代によって変化、変容していきますが、子や孫の世代まで続いてほしいというのが人間の懐だと念うんですよ。

けれど今、戦後80年。この国の政治も含めて、ある程度その経済的予見も人口減少とともに出てきています。そうなったときに、“永続”という2文字や、中心点というものが、国もこの商工会議所も明白ではない。観光客数をどのくらいに設定するか、売上をどれだけ上げるか、経済発展をどのくらいにするか。そんなものは手法手段の一つに過ぎません。上位概念が明白になっていないのに、一つの事業だけで話しても価値観が違うから本質からずれていく。そして、資本主義の原理に飲み込まれていくんです。

それなら、青年経済人のリーダーである我々が、明確に“永続”という2文字を中心点に置き、YEG活動を通して地

